

ちょうふ環境市民会議

第12回定期総会

議案書

2020.6.28(日) 14時～

文化会館 たづくりみんなの広場

議案項目

第1号議案	2019年度事業報告	P. 1
第2号議案	2019年度収支報告	P. 8
第3号議案	2019年度監査報告	P. 9
第4号議案	2020年度事業計画案	P. 9
第5号議案	2020年度予算案	P. 12
第6号議案	新理事1名就任	P. 13

■第1号議案

2019年度事業報告

○2019年度活動方針

- ・東日本大震災後、都市に住む市民の暮らし方が問われています。暮らしを根本から見直し行動する「私から始めるエコライフ」の活動に引き続き取り組みます。
- ・調布市の自然環境をはじめとする「環境」について、環境を考える市民・事業者・団体に向けて活動で得られた情報や知恵を共有できるよう連携して活動していきます。
- ・市民・活動団体・企業等との連携を図るプラットフォームとしての役割を担う上で必要となる、市民向け環境情報の受発信の基地等についても検討していきます。
- ・予算要望活動により、これまでの環境学習交流推進事業委託の他に、前年度に引き続き①環境基本計画を実効性のある計画とするための人材育成講座の開催と中間報告会開催にむけての提案「協働推進事業」、②深大寺・佐須地域環境資源管理・活用委託事業（2020年度で暫定使用終了）③国分寺崖線ウォークイベント事業の業務受託など、環境市民会議の役割と責任が大きくなっています。2019年度もプロジェクト(PJ)ごとに事業実施に取り組みます。
これら多岐にわたる委託事業や自主事業を継続していくプロジェクトチーム(PJ)には、多くの会員のご協力をお願いいたします。
- ・今後も継続して環境保全活動を担う人材確保のため組織運営の再構築についても検討します。

○2019年度活動方針にもとづき活動しました

- ・平成28年度施行の調布市環境基本計画（2016—2026）では、ちょうふ環境市民会議が市民団体・事業者・行政と連携をとりながら推進体制を担う市民組織として位置づけられています。2019年度には「環境基本計画協働推進委託事業」として市から事業受託し、1月の中間報告会にむけてのワークショップのあり方などを市民との協働を具現化するために提案をしてきました。
- ・佐須地域の公有地化した土地活用について、深大寺・佐須地域環境資源管理・活用委託事業の受託により2年間の暫定使用の2年目と今後の有効活用について提案しました。
- ・他に、緑と公園課からは「崖線ウォーク事業」の2年目の事業を受託し、昨年の経験を踏まえて崖線樹林地を知ってもらうコースを加え2コースで実施しました。
- ・2009(平成21)年3月の設立から10年が経ちましたが活動拠点の確保については実現していません。

1. 組織運営報告

理事会（理事9名 及び監事1名）

- ・定例理事会を年11回開催しました。
- ・受託事業業務管理については業務ごとに担当理事を決めました。
- ・行政との懇談会（環境政策課及び緑と公園課）は3回行い環境基本計画協働推進を進めていくための方法、深大寺・佐須の取得地に関する進捗状況や市内の樹林地に関する要望などについて話し合いました。
- ・調布市環境基本計画及び調布市地球温暖化対策実行計画（区域施策編）

改定支援業務委託事業者候補審査会のプロポーザル委員に理事1名を選出

- ・令和2年度の調布市環境基本計画等改定委員会の委員として理事の岡部氏を推薦しました。

運営会議（ちょうふ環境市民会議会員）

1回実施。いずれも交流会の内容について話し合いました。今年度も、運営会議の開催が時間的に難しく、会員の意見をどのようにすくい上げるかの方法等に工夫が必要です。

総会

5月19日、第11回定期総会をあくろす研修室にて開催しました。一般会員の参加が少なかったため次年度はイベントと合わせて開催するなどが提案されました。

事務局（事務局長不在 / 局員1 / その他 会計1）

2019(令和元)年度事業計画の年間進行管理を行いました。理事会議題案の作成や資料準備、議事録、個人会員・団体会員に対する連絡、及び行政との連絡調整など、また会計業務（受託会計含む）事務一切を担当しました。

会員動向 【2019年度末 会員数】（ ）内は昨年度実績

個人会員：52 (49) 団体会員：13 (13) 法人会員：5 (5) / サポート会員：12 (13)

2. 事業報告

<自主事業>

(1) 交流事業

①雑木林連絡会（担当：安部・大村）

年間4回の連絡会を開催し、緑と公園課からは予算や緑地政策に関する情報提供などを受け、5つの保全作業グループからは2年続いた台風被害対策についての要望や様々な情報交換を行いました。第3回目の連絡会については、8月25日に西調布の凸凹森で安全講習会を開催、とくに夏季の活動のリスク対策について学びました。

また環境市民会議の企画運営による「調布がいせんウォーク 2019」にも実行委員会の段階から連絡会の保全活動団体が参加し、当日もスタッフの中心となって協力しました。

②イベント参加・活動PR

- ・アースデイ in 調布 2019 5/11 (土) (担当：紺野 他カニ山の会など)

調布駅前広場（ビックカメラ前）…植物の苗、ペットボトルケース、などの販売、カニ山の会の竹コップ作りなど、募金をしてくださった方々もいて感謝しています。募金含む売上 7750円でした。

- ・調布市主催「環境フェア」6/1 (土) (担当：里・山本・中原・石川+含むスタッフ延べ8名) 市役所前庭にて開催…①展示物は会報の「自然だより」…バックナンバーの人気あり、環境活動関連のチラシ等を配布し環境市民会議のPRに繋げました。②体験コーナーとしては恒例の丸太切りタイムトライアル(子ども以外にも他のブースの若者たちも含め33名が参加し楽しん

でいました。②野の花ツアーとして午前と午後の2回・会場近辺で身近な野草のプチ観察会を行ったが参加者からは「こんなところに！」と大変喜んでもらえました。③物販は会員からの提供品“袋モノ+風呂敷”天然もので明るい柄が好評でした。折からマイクロプラスチックを含むプラごみ問題もありタイムリーなものでした。

・多摩川自然情報館祭り 11/16(土) (担当：鈴木+スタッフ4名)

多摩川自然情報館…例年通り多摩川河原のクズを使ったリース作りで参加。年々材料集めにも慣れ、豊富な素材を提供できたため最後まで安心して開催できました。300円×30名の参加費は黒字となりました。

(2) 活動推進 (環境学習)

ここ数年、大きな問題となっているマイクロプラスチックの環境への影響について、東京農工大学 高田秀重教授による講演会を行いました。

5月30日たづくり映像シアターにて西部公民館の学習グループとの共同開催で、100名規模の会場がほぼ一杯になる参加者がありました。改めて身近にあるレジ袋やプラスチックごみ処理方法等について考えを新たにしました。

(3) 広報事業 (担当：事務局)

- ・ホームページ (ブログ) HP 基本管理 1名 (委託)。

2020年1月から樹林のようすについては各団体からの希望もあり毎月HPへまとめて掲載することになりました。紙面と違って、字数や写真の枚数が自由になり、スマホでも簡単に見ることができます。

- ・ちょうふの自然だより 4回発行 紙面ならではの読みやすさはありませんが、配布場所の少なさなどの課題もあり、折々の自然のようすなどはHPへ切り替えることになりました。従ってちょうふの自然だよりは2020年1月、通算152号をもって20年の歴史を閉じさせていただきました。

(4) 調査研究

農業公園視察 (1月17日) 理事6名

調布市深大寺南1丁目公有地の暫定使用が2年目となり、2020年度には都市計画決定後に、(仮)農業公園として活用していくということがわかってきました。6月の団体交流会でのテーマでもあり、講演会での斎藤講師が行政から受託している実践の場を視察することで、実現性や必要な条件等を市に提案したいと実施しました。

杉並区成田西と武蔵野市の圃場を斎藤さんの案内で視察しました。杉並区の①「収穫物を販売し区の基金に繰り入れる」、②「区との協働事業を明確にし毎月話し合いをする」などの運営方法は参考になりました。一方、武蔵野市では、畝貸しをしたことで、農作業を継続している市民との間での収穫物等の考え方の違いが運営上に影響を及ぼしている、などの課題もみえてきました。3月の行政への政策提案に活かしました。

<受託事業>

(1) 雑木林ボランティア講座運営事業 (担当：里・尾辻・中原+補助スタッフ2名)

年間6回の講座を開催し、20名の参加申し込みがありました(2名キャンセル=18名)。

- ①初めての試みとして第1回講座の最後に懇親会を実施。(自己紹介→受講生OBの話+講師の話他)好評のため継続します。
- ②受講者の約半数は市内の雑木林をベースに新しい団体を立ち上げる計画があることから勉強のため参加したもので、既存の団体への参加は1名でした。
- ③体力が伴わない年配の受講者の対応に苦慮したので、今後は受講申し込みに当たって、講座の目的「雑木林の保全活動者を増やす」を明確に伝えることを再確認しました。
- ④今年度受講生が講座終了後における既存各保全団体への入会が1名にとどまったことについては、6回の講座を通じて参加意欲が増すように受講生への“トライアル制度の浸透化を図る”等のフォロー強化に努めていきます。

(2) 環境保全団体・市民の交流事業 (担当：安部・鍛冶)

第11回環境活動交流会 ～ちょうふ再発見～ 里山のあるまち

6/14(金)～6/20(日) 文化会館たづくりみんなの広場・映像シアター

深大寺・佐須の公有地の暫定使用を受託し2年目となり、あらためて、調布の里山の景観の保全や都市農業の継続について、環境の視点から考える機会とするため交流会のテーマとしました。

① 「調布環境保全団体の活動紹介展」 パネル(展示団体26)・写真・動画

② 交流カフェ「話そう、あんなことこんなこと」

「動くおうちができるまで」6月14日(金)午後2時～3時半 話題提供：大村 参加者10名

「プラスチックの行く先は…」6月15日(土)午前10時～11時 話題提供：増田 参加者6名

「深・佐須のはたけをたがやし隊」6月15日(土)14時～15時半 話題提供：山本 参加者6名

③ 講演会「深・佐須の畑をたがやしたい」～調布の里山保全と都市農業をどう活かすか～

講師：大橋南海子さん(株まちづくり工房・調布市都市計画審議会会長)

：斎藤瑞枝さん(NPO法人むさしの農業ふれあい村代表)

6月16日(日)午後1時半～3時半 参加者 31名

はじめに大橋講師より、都市農地・都市農業政策の政策転換について「都市農業振興基本計画、生産緑地制度、都市緑地法の改正、都市農地貸借法制定等の変遷」から、調布市の農業推進施策の現状と課題について、深大寺・佐須の公有地での都市農業の可能性の検討課題を3つの視点①保全利活用メニュー・機能、②保全利活用を担う主体、③保全利活用の制度・手法、と、運用可能な制度・手法等や農のネットワークとプラットフォーム形成イメージについても提示されました。

実際事例として①東京都農の風景形成地区制度活用(喜多見農業公園)、②調布市国領北浦地区の都市の中に農を継承する試み(区画整理事業)、③農会した住民主導のコミュニティ再

生事例（厚木市飯山地区）が紹介されました。どのようなビジョンを持って、都市農業を通じて里山保全につなげるか、法制度等や事例については、調布市での今後の可能性と課題につなげて話されました。

次に、斎藤講師より、農業公園を事業委託している杉並区と武蔵野市の運営状況について報告があり、市民との協働をどのように実践していくのか、実情を知る機会となりました。

（3）エコライフ推進プログラム事業（ゴーヤ苗配布）（担当：鍛冶）

6月1日（土）環境フェア（10時～15時）において、市が準備した「緑のカーテン栽培用ゴーヤ苗」800株を、市民に無料配布しました。簡単なアンケート「日頃の環境活動としてどのようなことに気をつけているか（省エネ等）」の回答者に配布しました。

また、配布用のポリ袋を廃止し、スタッフが作った新聞紙の袋を使用し好評でした。

（4）自然環境活用事業（担当：小林・鍛冶・安部・大村・石川）

昨年度検討した市内の身近な自然資源を環境学習等に活用できる教材として深大寺自然広場（通称 カニ山）のマップの作製を行いました。（尚、予算の関係で印刷は2020年度事業）

（5）深大寺・佐須地域環境資源管理・活用委託事業（担当：安部・山本・紺野・鍛冶）

公有地化された深大寺・佐須公有地の活用について環境資源管理の2年間の暫定活用の2年目の事業を受託しました。前年度から土づくりを行った畑で①じゃがいもの収穫（7月24日）、②秋冬野菜を植えよう（10月5日）、③里芋掘りと収穫祭・しめ縄づくり（12月21日）のイベントを行いました。市民会議が受託した600㎡の日常的な管理については、NPO法人東京あぐりの受託管理用地とともに、理事が仲介して、肥培管理や下草刈り等の作業を共同で行いました。また、近隣農家の方々にもアドバイスを受けるなど地域の情報交換等を頻繁に行うことができました。メンバーの連絡にはLINEを活用して、作業や畑の様子を随時、発信することができました。暫定活用後の畑の活用については、市の方針が定まらない中、市民会議と市との懇談会での聴き取りや2年間の畑の管理について今後の（仮）農業公園にむけての政策提案を3月に行いました。

（6）調布市環境基本計画協働推事業

1. 環境リーダー等育成のための仕組みづくりの検討結果に基づく

環境講座の運営（担当：大村・安部・鍛冶・岡部）

今年度は「環境リーダー育成」の基礎となる、環境問題を意識する市民の「すそ野」を広げることが目標とし、なかでも子育て現役世代の受講を期待して講座を企画しました。

講座全体のタイトルを「さよなら＜使い捨て＞生活 2019環境講座」として、8月～10月に4回の講座を実施しました。講座の企画段階から中井八千代氏（環境省 環境カウンセラー）にコーディネーターを依頼し、第2回から第4回では講師もお願いしました。実施場所は調布市教育会館301（第1回を除く）各回の日時・テーマ・受講者人数は次の通り。

第1回 バス見学ツアー 水の科学館・虹の下水道館 8月20日（火）午前9時半～午後4時
環境市民会議（大村）が車中でレクチャー 参加者21名（大人15名 子ども6名）

- 第2回 捨てないためにできること（プラごみ） 9月3日(火)午前10時～12時
参加者 13名
- 第3回 我が家の冷蔵庫の中は…（食品ロス） 9月17日(火)午前10時～12時
市民講師：安保久恵（フードバンク調布） 参加者7名
- 第4回 うちのキッチンから地球が見える（ごみ問題とまとめのワークショップ）
10月1日(火)午前10時～12時 ゴミ対策課による出前講座（渡邊氏、宮田氏）
参加者11名

（成果）4回の講座に延52名の市民が参加し、情報量豊かなスライドによる講師のレクチャーも好評でした。身近な生活の在り方が地球規模の環境問題につながっているという意識が参加者に共有され、「暮らし方を変えなくては」との声があがりました。

1回目のバス見学ツアーは家族連れの参加を期待して夏休み中に設定し、小学生6人の参加があり、4回の中で最も好評で活気のある講座になりました。「現場」を歩き、家族で楽しみながら。「知る」「考える」「ドキドキ体験」もあるという点が好評の理由と思われます。来年度以降もこうした講座を実現できれば、世代的にも意識の上でも、より幅広い市民の受講が実現できると考えます。

4回目のワークショップは、講師による適切な進行・テーマ設定があり、講座全体の振り返りと「自分自身になにができるか」「何をやっていくか」を受講者自身が考える場になって意味がありました。

（課題）企画段階で想定した「これまで環境問題をあまり意識してこなかった」「環境保全活動に参加したことのない」「子育て世代」の受講をほとんど実現できませんでした。実際の受講者は、これまで何らかの市民活動に関わった環境意識の高い、高年齢層の市民が多く、女性に偏っていました。若い世代・子育て世代に対する発信力の不足も痛感しました。講座の企画段階からその世代の意見やアイデアを反映させることが必要であったと思われます。

2. 調布市環境基本計画の見直しに向けた中間報告会の協働運営（岡部・理事全員）

中間報告会実施に向けた準備検討会を10月から開始し、市民参加のワークショップの内容や進め方及び募集方法等について4回の検討会を環境政策課と開催しました。

中間報告会は1月25日に募集人員35名を超える参加者を得て実施されました。中間報告会は首都大学東京の奥教授による環境についての講演と、ワークショップをテーマ毎に（緑と水・生物多様性、地球温暖化対策、循環型まちづくり・ごみ対策、市民協働のまちづくり）5つのテーブルに分け意見交換が実施されました。

多数の参加者を得ましたが、意見交換の時間が短く今後のワークショップの実施方法については改善の課題が残りました。

（7）国分寺崖線ウォークイベント事業（担当：大村・安部・小島・石原・神山・児島・鍛冶）

国分寺崖線の保全活動をひろく市民に周知し、人材育成と環境教育の一環等を目的として昨年度と同様に事業が採択され、12月1日(日)8時～15時に快晴の天気の中実施しました。雑木林連絡会のメンバーを中心に企画運営のための10回の実行委員会の他、実踏やスタッフ説明会等を開催し「安全確保」を重点にしたスタッフ配置で実施しました。実行委員会では、今年の

コース設定を基本に、「歩く距離が長いのではないか、もう少し樹林地を市民に知ってもらいたい」というアンケート結果や反省点を踏まえ、2度の実踏を重ねて一部変更しました。仙川駅前公園を出発点として、ゴール地点を2か所に設け、①こもれびコース約3kmと②まんきつコース約8kmとした。①のこもれびコースでは、ゴール地点を実篤公園とした、入間1丁目樹林地の散策・若葉町3丁目緑地でリース作りやシュロかごづくり等の森のめぐみを楽しむ内容としました。②まんきつコースは、前年同様ゴール地点をかに山とした約8kmの区間でガイド付きを2班、自由に歩く3通りとしました。

参加者は、当日受付を含め合計87名（大人55名小学生26名幼児6名）でした。広報が市報の他、ミニコミ誌掲載等もあり、受付をWeb上と代行電話サービス利用を行いました。締切前に100名を超えそうなこともあり、早めに終了しました。3つのコース（まんきつ8km、ガイドウォーク付きまんきつ8km、こもれびコース3km）のコース別に受付を行った。コースマップを手にクイズ8問の回答をしながら歩き、途中、つつじヶ丘公園での梅ジュースと菓子のもてなしやゴール地点のキャンプ場では野菜スープ・焼き芋・焼きマシュマロ等で疲れをいやし歓談しました。

しかし、2コース・3通りのコース設定とゴールが2ヶ所になるなど複雑になってしまいました。参加者自身がどのコースに申し込んだかわからなくなったり、当日コース内容を知っての変更等もあり、チラシやHP申込者へのコース説明が十分行えず、こもれびコースで森の恵みを楽しんでもらうイベントへの参加者が少なかったことが大きな反省点となりました。しかしながら、参加者からは「楽しかった」「新しい調布の発見があった」「また参加したい」などの感想がよせられ、2020年度も市事業として実施予定です。

*上記（1）～（7）の受託事業はプロジェクト方式で運営しました。

その他

総会終了後、元「調布の自然学習ボランティア」代表 杉山さんより以下のメッセージとともに寄付金をいただきました。ありがとうございました。

「調布の自然学習ボランティアは10年間活動してきました。東急環境財団からいただいたお金が残っていたので、やはり環境関連の会に寄付して役立てていただきたいと思います、50000円を寄付します。ちょうふ環境市民会議でも是非子どものための環境学習を開催していただきたいです。」

■第2号議案 2019年度収支報告

[自2019年4月1日 至2020年3月31日]

単位：円

			予算	決算額		
収入	活動準備金		444,695	444,695		
	会費	正会員 個人	50,000	42,000	41名	
		正会員 団体	13,000	13,000	13団体	
		正会員 法人	15,000	15,000	5法人	
		サポーター 個人	7,000	3,000	6名	
	小計		85,000	73,000		
	事業	自主事業	18,000	17,450	アースティ/環境フェア/情報館まつり	
		受託事業	2,300,540	2,300,540	環境学習事業/基本計画検討事業/深佐須活用事業 崖線ウォーク	
		小計	2,318,540	2,317,990		
	寄付金		110,000	541,638	受託事業関連:322,373/ 自然学習ボランティアから50,000	
	雑収入		0	93,049	PC購入分積立金取崩し	
	収入合計		2,958,235	3,470,372		
支出	事業費	自主事業	交流事業費	21,000	26,720	アースティ/環境フェア/情報館まつり/ 雑木林連絡会
			活動推進事業費	25,000	19,060	講演会
			広報事業費	101,000	82,329	自然だより(2回) HP維持管理 ネットメイン
			調査研究・学習費	20,000	13,510	データ収集管理 農業公園見学
				167,000	141,619	
		受託事業		2,300,540	2,300,540	環境学習事業/基本計画検討事業/深佐須活用事業/ 崖線ウォーク 事務局人件費216,000含む
		小計	2,467,540	2,442,159		
	管理費	旅費交通費	25,000	19,160	理事会交通費	
		会議費	8,500	5,044	総会・理事会資料代	
		通信費	2,000	370	郵送代	
		事務用品・消耗品	11,000	160,054	パソコン購入	
		雑費	0	0		
		事務局人件費	41,000	41,000	会計 メーリングリスト管理	
	小計		87,500	225,628		
	支出合計		2,555,040	2,667,787		
特別	記録誌積立		5,000	5,000		
会計	什器備品積立(カメラ等電子機器)		5,000	5,000		
	小計		10,000	10,000		
次年度活動準備金			393,195	792,585		
特別会計積立金累計						
			2018年度まで	2019年度積立	累計	
	記録紙積立		30,000	5,000	35,000	
	什器備品積立		35,000	5,000	40,000	
	PC機器積立		98,000	▲93,000	5,000	

■第3号議案 2019年度監査報告

2020年6月5日、会計担当理事の立ち会いのもと、監査を行いました。

1. 2019年度収支報告に相違はありません。
1. 領収書等証票類に間違いはありません。
1. 業務執行は適切に行われています。

2020年6月5日

監事 赤川 忠明

■第4号議案 2020年度活動方針事業計画（案）

○規約にかかげた活動目的・方針にもとづき、活動を楽しく行います。

- ・東日本大震災後、都市に住む市民の暮らし方が問われています。暮らしを根本から見直し行動する「私から始めるエコライフ」の活動に引き続き取り組みます。また、新型コロナウイルス感染防止対策など、新たな市民生活への制限に関わる事態も生じてきています。私たちの生活様式の変化を余儀なくされる中、環境にやさしい生活・持続可能な社会をめざした暮らしを考えていきます。
 - ・調布市の自然環境をはじめとする「環境」について、環境を考える市民・事業者・団体に向けて活動で得られた情報や知恵を共有できるよう連携して活動していきます。
 - ・市民・活動団体・企業等との連携を図るプラットフォームとしての役割を担う上で必要となる、市民向け環境情報の受発信の基地等についても検討していきます。
 - ・予算要望活動により、これまでの環境学習交流推進事業委託の他に、前年度に引き続き ①環境基本計画を実効性のある計画とするためのワークショップ運営への協力等の「協働推進事業」②国分寺崖線ウォークイベント事業の業務受託を行います。また引き続き深大寺・佐須地域環境資源管理・活用について、2020年度も運営等への提案等を行っていきます。
- また、環境基本計画の中間見直しの委員会、緑の基本計画改定等の委員会での発言等、ちょうふ環境市民会議の役割と責任が大きくなっています。新しく理事も加わり、若い視点を取り入れながら、2020年度もプロジェクト(PJ)ごとに事業実施に取り組みます。
- これら多岐にわたる委託事業や自主事業を継続していくプロジェクトチーム(PJ)には、多くの会員のご協力をお願いいたします。
- ・今後も継続して環境保全活動を担う人材確保のため組織運営の再構築についても検討します。

※ 「第12回定期総会」は新型コロナウイルス感染拡大防止対策のためメール配信により書面議決とさせていただきます。

1. 組織運営

理事会（新理事1名含む理事10名 及び監事1名）

- ・定例理事会の毎月開催。
- ・行政との懇談会（環境政策課及び緑と公園課）では市民ならではの企画を活かした事業や行政に要望等について話し合いをします。行政施策への提言も行います。

運営会議（環境市民会議会員）

理事以外の会員の意見を取り入れる場として運営会議を開きます。

総会

年1回開催。

事務局（事務局長／局員／その他 会計）

WEB その他、事務一切を担える方を募集しています。

<自主事業>

（1）交流事業

- ・各種イベント参加による、ちょうふ環境市民会議の活動紹介と交流
- ・コーディネート活動（雑木林連絡会事務局 その他活動支援など）

（2）活動推進事業

- ・前年度「調布の自然学習ボランティア」の会からの寄付金を活用して子どものためのワークショップの開催を検討します。
- ・毎年恒例の「しめ飾り作り」も開催予定です。

（3）広報事業

- ・WEBによる広報（メーリングリスト、HP、フェイスブックなどで情報発信）
各雑木林保全団体の保全作業の報告等は毎月HPにUPしていますがその他の記事についても掲載の努力をしていきます。若い理事の参加もあり、ユーチューブへの発信なども折々にやっていきたいと思えます。

ちょうふ環境市民会議設立以前から発行していた「ちょうふの自然だより」は記録誌として冊子化を検討します。

（4）調査研究活動（学習会他）

- ・深大寺・佐須の里山保全、また、崖線樹林地の緑地保全についての共通認識をもつために自主事業の一つとして他の環境保全団体の視察を行う予定です。

（5）提言活動

- ・環境基本計画の実施状況等のみならず、環境全般について会員皆がアンテナを高くし、得た情報の中から課題となる事項を取り上げ政策提言等行います。

<受託事業>

(1) 雑木林ボランティア講座運営事業

※今年度は新型コロナウイルス感染防止対応の影響でスタートが遅れていますが、7月に第1回講座をスタート(一部スケジュールを変更し)予定です。

全6回の講座の企画運営(募集は市報掲載・チラシ・ポスターによる広宣のほか市民会議HP等での講座PR・前年度の受講生にも拡散を依頼)。前年度から取り入れた第1回講座終了時に受講生とOB・講師・スタッフの懇談会を行い、早めに意見交換のしやすい環境をすることで受講生が講座終了後に各団体への活動参加を促します。

(2) 環境保全団体・市民の交流事業

今年度予定していた、たづくりギャラリーでの交流会はコロナウイルスによる緊急事態宣言のため延期としましたが、当初考えていた生き物や生物多様性の楽しい話題をメインにした交流会を夏に開催予定です。

(3) 自然環境活用事業

昨年度制作した深大寺・佐須地区にあるカニ山の自然環境案内マップを仕上げ、印刷発行を行います。また2016年に発行した「もりのちず」の改定版も発行予定です。

(4) 深大寺・佐須地域環境資源管理・活用委託事業

3回のワークショップ(作付けしたジャガイモ等の収穫祭、秋の収穫祭、土づくり等)の他、NPO法人東京めぐりと連携して、田んぼの活用(田植え・稲刈り等)を予定しています。

(5) 環境基本計画改定協働検討事業

① ワークショップ等への協力

環境基本計画改定に向けて今年度予定されている市民対象のWSを現在検討中です。

環境市民会議も環境政策課及び㈱創建とも打合せを行い昨年同様協働で進めていきます。

② 環境講座

新型コロナウイルス感染防止のため諸活動がいまだ休止状態であることと、昨年度の講座の反省を踏まえ、次のような枠組みで検討を進めていきます。

① 実施時期は秋から冬。

② テーマは「地球温暖化 STOP みんなが暮らしの中でできること」。「コロナ後」の生活についても考えたい。

③ 見学ツアー・何かをつくるワークショップ(WS)・子どもと一緒に参加、といった、参加型のスタイルを主体にして、幅広い層の参加を実現したい。

④ 環境市民会議の団体会員で、市民や子ども向けWSの実績がある(一社)えねこやの協力を得たい。

(6) 国分寺崖線ウォーク

実行委員会による企画運営で12月上旬に実施予定です。コース設定等、実行委員会で検討していきます。

■第5号議案 2020年度予算(案)

[自2020年4月1日 至 2021年3月31日] 単位: 円

			前年決算額	20年予算	内訳
収入	活動準備金		444,695	792,585	前年度繰越金
	会費	正会員 個人	42,000	50,000	50名
		正会員 団体	13,000	13,000	13団体
		正会員 法人	15,000	15,000	5法人
		サポーター 個人	3,000	5,000	10名
		小計	73,000	83,000	
	事業	自主事業	17,450	15,000	情報館まつり アースディ
		受託事業	2,300,540	2,086,700	環境学習事業/ 深・佐須環境活用/ 環境基本計画推進 / 崖線ウォーク
		小計	2,317,990	2,101,700	
	寄付金		541,638	200,000	
	雑収入		93,049	0	
	収入合計		3,470,372	3,177,285	
支出	事業費	自主事業			
		交流事業費	26,720	30,000	情報館まつり /アースディ 雑木林連絡会
		活動推進事業費	19,060	50,000	子供向けイベントなど2回開催
		広報事業費	82,329	100,000	HP維持管理 広報活動 ネットメイン
		調査研究費	13,510	20,000	データ収集 学習事業
			141,619	200,000	
		受託事業	2,300,540	2,086,700	事務局人件費216,000含む(18000×12)
		小計	2,442,159	2,286,700	
	管理費	旅費交通費	19,160	25,000	理事会出席交通費
		会議費	5,044	6,000	総会関連 理事会資料等
		通信費	370	2,000	資料郵送等
		事務用品・消耗品	160,054	100,000	
		雑費	0	30,000	
		事務局人件費	41,000	41,000	会計 Mリスト管理
		小計	225,628	204,000	
	支出合計		2,667,787	2,490,700	
差引(収入-支出)			802,585	686,585	
特別	記録誌積立		5,000	5,000	
会計	什器備品積立		5,000	10,000	
	小計		10,000	15,000	
次年度活動準備金			792,585	671,585	

■第6号議案 新任理事就任 承認の件

役員任期の改選期ではありませんが、新理事を一人むかえることになりました。

新理事 磯邊 隆

◇理事・監事は下記の通り磯部氏を含め全11名体制となります。

全理事・監事の任期は2021年に開催される第13回定期総会までとします。

記

安部 宝根（代表）／ 岡部 和平（副代表）／ 里 厚雄（副代表）／ 鍛冶 直美（事務局）
紺野 裕子／ 石川 和宏／ 中原 彰子（会計）／ 大村哲夫／ 山本 豊／ 磯邊 隆／
監事 赤川忠明